

第3回「鳴門病院を良くする会」における意見等について

○良質かつ適切な医療の提供

- ・「良質かつ適切な医療の提供」については、質の高い医師の確保に繋がってくる。4月以降も何名か医師が退職しており、診療科によっては減数になっているが、何とか医師確保に努力していただきたい。

○患者の視点に立った医療の提供

- ・住民の方に組織を作ってもらい、健康予防等を鳴門病院からだけ働きかけるのではなく、住民側からも発信を行ってもらい、住民が住民を協力していく体制づくり作りも大事であると思う。
例えば、「勝浦病院を守る会」では、住民が毎年1回学生を招待し、ミカン狩りやビッグひな祭りのイベントに招待を行い、その際に病院内で意見交流会を開いており、学生達にも人気がある。そういった組織があれば、住民からも研修医に鳴門の魅力をアピールしてもらえ、病院だけでなく、鳴門市全体でそういった取組も進めていただきたい。
- ・広報活動については、積極的に支援を行っていききたい。
- ・入院患者さんへの食事の提供について、「やはり病院食だな」といった声も聞くので、より質の高い食事の提供を検討していただければと思う。
- ・鳴門病院で入院した患者が、想定している期間よりも早く退院させられるといった声を聞くことがあるため、そういった患者の要望も聞いてみては良いのではないか。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、現在、入院患者への面会が禁止されているが、家族とも会えず、また他の入院患者とも交流がしづらいことから、認知症が進行している患者が増えていると聞いている。
今後、そういった患者の症状が進行しないような対策を検討していただきたい。

○救急医療の強化

- ・4月に救急科が新設されてから、明らかに救急受入件数が伸びてきている。
また、救急救命士が連絡すると、平日昼間には医師が直接対応してくれるため、より詳しく症状を伝えることも出来るし、医師側からも詳しく聞いていただけるので、より注意深く観察を行う必要があり、良い意味での緊張感を持って、現場で活動できている。

- また、受入率が上昇することに伴い、時間がかかる市外搬送の減少し、救急車が不足している状況が少なくなるため、第2、第3の出動を行いやすくなっている。今後も消防と連携を強化し、より良い医療提供体制を構築していただきたい。
- 小児救急の受入も、以前に比べ、受け入れていただいていると現場から聞いており、引き続きお願いしたい。
- 救急患者を紹介して、未だかつて断られたことがなく、非常にありがたく思っている。一方で、病状によっては救急搬送に同乗していかねばならず、その間、患者を待たす必要がある。そのため、鳴門病院でドクターカーの運用をしていただければと思う。

○感染症対策の推進

- 鳴門病院では、発熱検査外来を設置する予定はあるのか。
- 現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、リモート会議やWeb会議が盛んに実施されているが、鳴門病院ではオンライン診療等の非対面型の環境の整備はどのように考えているのか。

○生活習慣病予防に対する医療の推進

- 各自治体や企業、団体と連携した「生活習慣病予防」の充実・強化に向けて、是非協力をしていきたい。

○質の高い医師の養成・確保

- 研修医の確保が非常に大切である。今年は、新型コロナウイルス感染症の関係で、面接も十分に行えない中、2名の確保が出来たということは非常に素晴らしい。今後は、早い段階から学生と接触し、様々な情報収集を行い、地元出身の学生を知ることが重要であり、鳴門病院に行こうと親しんでもらう取組が大事である。

○看護専門学校の充実強化（第2－4（3））

- 県内にも他の看護師養成施設はあるが、需要と供給のバランスはどうなっているのか。